

SHIRO



PAPER

ZERO EDITION

ZERO EDITION

Ver. 2.0

March 2024

2 ZERO WHITE FIG

新しくつくりたい
新たなものづくりから
限定フレグランス

4 SHIBUYA PARCO POP UP STORE

渋谷PARCOにて
使い捨てない店舗づくり

6 ZERO WASTE DESIGN

捨てることを考えてつくる
つくることを考えて捨てる
美しい廃棄物処理施設へ



賑わいと華やかさの中に さまざまなカルチャーが共存する 渋谷PARCO限定フレグランス 『ゼロホワイトフィグ』

新しくつくらない、新たなもののづくりから生まれる

ZERO COLLECTION FRAGRANCE。

渋谷PARCOでのポップアップイベントを記念し、

限定の香り『ゼロホワイトフィグ』が登場します。

つくり手として、何かをつくるとき

今あるものすべてを資源として活かしたい。

「ものづくり」も「店舗づくり」も

同じ想いで取り組んでいます。

Photographs: MASAHIRO OKADA



CLAY HAND SOAP クレイハンドソープ

手肌を洗う時間も
香りを楽しみながら
すっきりオフ

毎日の手を洗う時間も、香りで彩るクレイハンドソープ。スクラブ成分として配合している細かなクレイ（火山灰）が手肌の汚れや余分な皮脂をやさしくオフして、清潔な状態に導きます。保湿成分のアロエ配合で、しっとりとした潤いを感じるなめらかな洗い上がりを実感していただけます。ふとした仕草のたびに手元からやさしく香るので、普段香水などをつけない方へのギフトにもおすすめのアイテムです。
145mL 2,530 円（税込）

SHIRO 香りのリニューアルにより使えなくなった「クレイハンドソープ」の容器を使用

EAU DE PARFUM オードパルファン

つけ方によって
印象さえも変えて
さまざまなシーンを彩る

ほのかな甘さのフィグと上品なフローラルに包み込まれる『ゼロホワイトフィグ』の香りを心ゆくまで楽しめる香水。首元や腕、足首など全身にやさしく息まで香りで満たされます。さりげなく香らせたいときには、ウエストやひざの裏などにつけるのがおすすめです。身体につける以外にも、外出のときはハンカチなどの持ち物に、お家ではカーテンやシーツの端にプッシュすれば、香りが暮らしのシーンを彩ります。
40mL 4,400 円（税込）

SHIRO 香りのリニューアルにより使えなくなった「オードパルファン」の容器を使用

GEL PERFUME ジェルパフューム

香りを楽しみながら
きらめきを肌にまとう
新フレグランスアイテム

肌に塗布することでやさしい香りに包まれながら、陽の光によってきらめく青やピンクのラメをお楽しみいただけます。ゆずの蒸留水を配合しているので、同時に保湿ケアも叶います。使用しているラメは、販売を終了したメイクアップ製品で使っていたものです。これらも SHIRO の工場などで眠っていた原料を、資源としてフレグランスに活用しました。すでにあるものがカテゴリーを越え、お互いの魅力を引き出しながら生まれ変わりました。
72g 2,750 円（税込）

SHIRO 販売終了により使えなくなった「チャクラサナ スプレー 65」の容器を使用

FRAGRANCE DIFFUSER フレグランスディフューザー

新しい日々の生活で
どんな気分にも
やさしく香りが寄り添う

リビングやベッドルームなどに心地よく香りを広げるフレグランスディフューザーは、春から始まる新しい日々の生活に寄り添ってくれます。お部屋の広さに合わせて付属のスティックの本数（10本付属）を増減すると、お好みの香りの強さに調整可能。逃げ感のあるガラス製の容器がインテリアにもなじみ、どんな空間にもマッチするので、新たな道へ一歩を踏み出す大切な方へのギフトにもおすすめです。
140mL 3,960 円（税込）

SHIRO 香りのリニューアルにより使えなくなった「ルームフレグランス」のレフィル容器を使用

ZERO WHITE FIG

ゼロホワイトフィグ

復刻を希望する声を多くいただいていた「フィグ」の香料をメインに、アップルなどのみずみずしい果実を合わせ、過去に販売した限定フレグランス「ホワイト」の透明感あふれるフローラルが包み込み、奥行きのある香りへ。ラストはホワイトムスクのパウダリー感と、魅惑的なサンダルウッドとアンバーが印象づけます。

世の中をしあわせにするために、 本気で向き合う 「ものづくり」と「店舗づくり」

誰かが手放したものの。それは、誰かにとっては必要なものかもしれません。新たにものをつくり続けることで地球に負荷がかかり、今、そして未来に、私たちに返ってきています。自然の恵みを最後の一滴まで余すことなく使ったものづくりをしているSHIROだからこそ、使われなくなったすべての資源を活かしたい。

ブランド誕生から15周年を迎える2024年、SHIROは廃棄物ゼロを目指す「15年目の宣言」を表明しました。そのために注力するのは、SHIROの「ものづくり」と「店舗づくり」の2つです。「つくること」へのこだわりや想いについては、これまで時間をかけて丁寧に皆様にお伝えしてきました。しかし私たちが認識をしていながらも、ずっと心に引っかかっている課題がありました。いえ、正確に言うのと、見て見ぬふりをしてきたことがあったのです。それは「捨てること」。捨てるという行為に対するこだわりは薄く、関心の低さを自覚すらしていなかったかもしれません。廃棄物をゼロにするために、捨てることを減らすことや、資源として使うことはもちろん、一度は手放されたものの価値を見つめ直し、使い続けることも大切です。SHIROの理念でもある「世の中をしあわせにする」ために、私たちは今、本気で向き合い始めました。

ZERO COLLECTION FRAGRANCE

 ハンドクリーム ゼロサボン ゼロホワイトトリリー ゼロホワイトティー 15g 1,320円(税込)	 オードパルファン ゼロサボン ゼロホワイトトリリー ゼロホワイトティー 40mL 4,180円(税込)	 ボディコロン ゼロサボン 100mL 1,980円(税込)	 フレグランス ディフューザー ゼロホワイトトリリー ゼロホワイトティー 80mL 2,200円(税込)	 ヘアミルク ゼロサボン 30g 2,420円(税込)
 ファブリック アイロンミスト ゼロサボン 190mL 2,200円(税込)	 ヘアミスト ゼロホワイトトリリー 80mL 3,201円(税込)	 ファブリックソフナー ゼロホワイトトリリー 500mL 2,860円(税込)	 ヘアオイル ゼロホワイトティー 30mL 3,201円(税込)	 オイルインボディ ローション ゼロホワイトティー 80mL 3,850円(税込)

今ある素材を活かして 新しい香り、新しい魅力

ZERO COLLECTION FRAGRANCEでは、SHIROの工場などで眠っていた香料や容器を使用して、二度とつくりえない香りづくりに挑戦しました。香料の使い方を定める国際機関の方針転換や、リニューアルによって使われなくなった香料が倉庫の片隅に眠っていたのです。さらに、キズなどの不良を見越して少し多めに仕入れていた容器も積み重なっていました。品質の高い製品をつくらうとする過程で生まれるこれらの余剰品に丁寧に向き合い、捨てるのではなく、組み合わせることでまったく新しい香りと魅力を生み出しました。

「余りもの」は少しネガティブな響きのある言葉かもしれませんが。ZERO COLLECTION FRAGRANCEは、お客様の期待を悠々と超えるくらい、新しい魅力のある香りを生み出すことを目指しました。それは、SHIROのスキンケア製品です。すでに取り組んでいたこと。昆虫や酒かき、米ぬかなどは、栄養をたくさん含んでいるにも関わらず、規格外などの理由で捨てられてしまっていた素材を使ってものづくりをしています。同じ考え方をフレグランスにも応用できるのではないかと考えたのです。無限にある香料の中から理想的な香りをつくり出せる通常のフレグランスづくりとは違い、すでに手元にある香料を組み合わせ、いかに魅力的な香りをつくれるか。時にそんな制限は、ミラクルを生み出します。

ZERO COLLECTIONの「ゼロ」は、SHIRO創業のときからずっと持ち続けている原点（ゼロ地点）に今一度立ち返るという意味も込めています。私たちが大切にしているのは、自分たちが使いたいものをつくること。その考えはいつしか、世の中を良くするもの＝使いたいものに変化しています。つくり手として、今あるものの価値を見つめ直し、未来に繋がるものづくりをしていきたいと思うのです。



38.8%

使われなくなった
854,286本の容器のうち、
331,883本を
ゼロホワイトフィグを含む
ZERO COLLECTION
FRAGRANCEに
使用しました



33,344kg

今回331,883本の容器を
再利用したことにより、
廃棄する際に排出される
約33,344kgのCO₂を
削減できました。

31.8%

IFRA(国際香粧品香料協会)
による使用可能量変更などに
伴う製品リニューアルや、
その他工場で余っていた香料
2222.6kgのうち、
705.79kgを使い
ZERO COLLECTION
FRAGRANCEの香りが
生まれました。

CO₂排出量算出の根拠について
CO₂排出量は、国立研究開発法
人産業技術総合研究所 安全科
学研究部門 IDEAラボが提供す
る「IDEA ver3.1（日本国内の事
業における原材料・製品・サ
ービスの環境負荷をライフサイ
クル/バリューチェーンを考慮し
見える化したデータベース）」
を基に弊社独自に算出。

ZERO COLLECTION FRAGRANCE TOP 10

- 1 ゼロサボン
ハンドクリーム
- 2 ゼロホワイトティー
ハンドクリーム
- 3 ゼロホワイトトリリー
ハンドクリーム
- 4 ゼロサボン
オードパルファン
- 5 ゼロサボン
ボディコロン
- 6 ゼロサボン
ファブリック
アイロンミスト
- 7 ゼロホワイトトリリー
オードパルファン
- 8 ゼロホワイトトリリー
フレグランス
ディフューザー
- 9 ゼロホワイトティー
フレグランス
ディフューザー
- 10 ゼロホワイトティー
オードパルファン

「TOP10」は各アイテムの発売
日初日の売上点数より算出。
ランキングマークはカテゴリー
上位3製品を指します。

木造建築廃材の 二次利用、三次利用を 見据えた循環

産業廃棄物処理場に持ち込まれた木材

それをごみとみるか、資源とみるか、

あるいは唯一無二の素材とみるか。

使い捨てをなくすために

次の活用へと展開できるディスプレイを考える。

Photographs: SHIN SASAKI

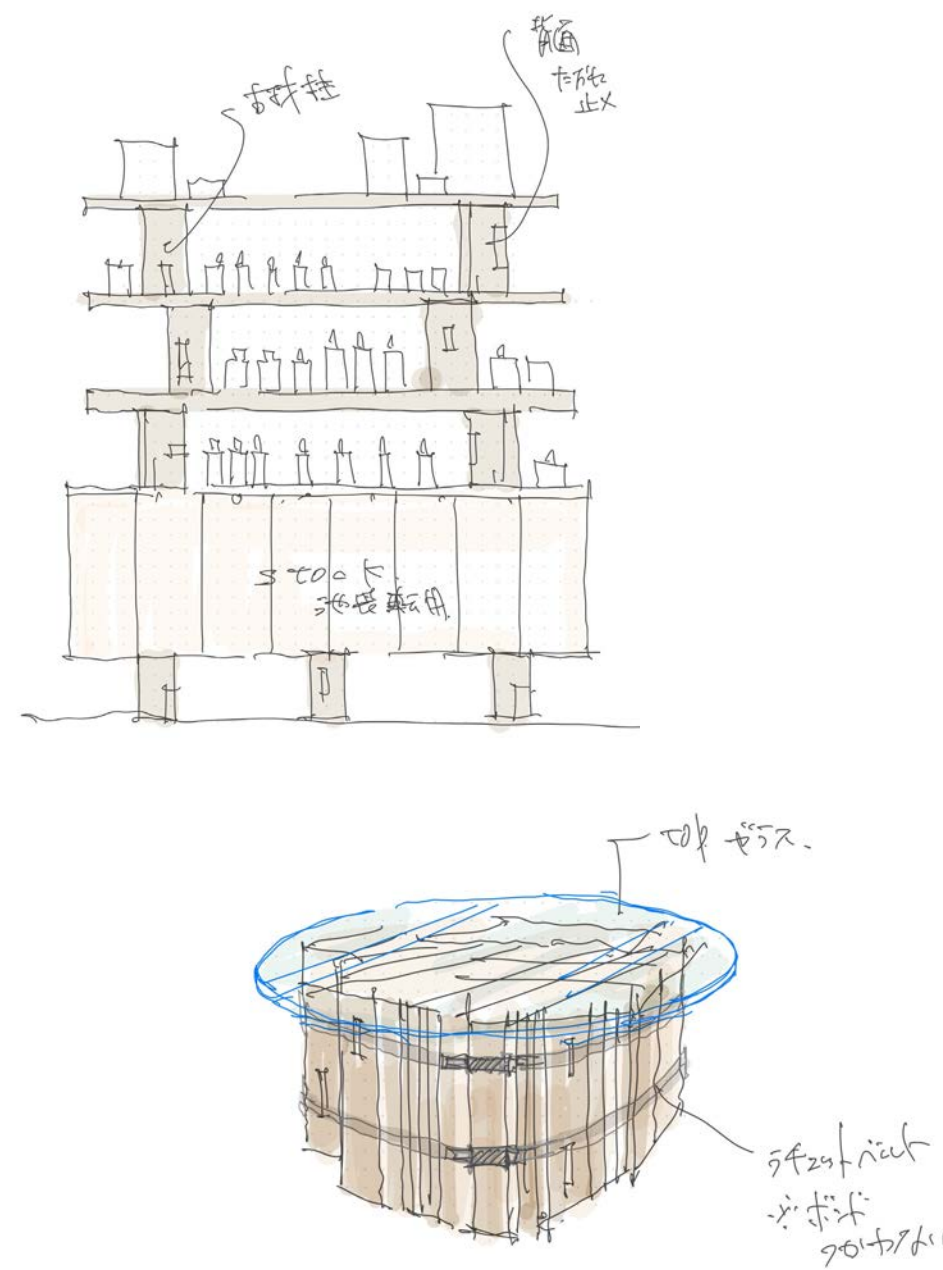


若い発信力のある場所で、 捨てないというブランド理念をデザイン

2024年3月8日(金)、「SHIRO 渋谷PARCO POP UP STORE」がオープン。さまざまなカルチャーが交差し、進化し続ける渋谷PARCOだからこそ表現できる、今のSHIROのアイデアを詰め込んだ空間です。「15年目の宣言」を表明し、ものづくりにおいては「ZERO COLLECTION FRAGRANCE」をつくり出しました。そして、店舗づくりにおいても廃棄物ゼロを目指しています。

世界各地の商業施設に次々と現れる各種のポップアップストア。シーズナルアイテムやビジュアルに合わせてつくられる期間限定の売場は見えてワクワクします。その時にしか見られない特別なディスプレイ。華やかに売場を彩る什器や装飾ですが、シーズンが終わると同時に行き場を失い、廃棄物として捨てられています。商業施設の閉店後に、夜から朝にかけて行われる解体作業は、お客様の目にとまることはなく、翌朝になると次のポップアップストアができあがっているので気がつく人は少ないかもしれません。「SHIRO 渋谷PARCO POP UP STORE」では、つくる段階ではもちろん、期間終了後も廃棄物を出さない店舗づくりをしました。

ポップアップ会場の設計を手掛けるのは、DRAWERSの小倉寛之さんです。小倉さんは「SHIRO ルクア イーレ店」「SHIRO ルミネ池袋店」のほか、2024年4月に北海道夕張郡長沼町にオープン予定の一棟貸し宿泊施設「MAISON SHIRO (メゾンシロ)」や、SHIROの東京オフィスの設計も手掛けてくださっています。空間の美しさや利便性だけでなく、「つくる責任」を意識し、SHIROがものづくりに込める想いを建築物にデザインで落とし込んでくれます。



素材は産業廃棄物を使い、 建築構造材などをマテリアルリユース

新しいことに取り組むときは、現場を見ることからスタートするのがSHIRO流。「捨てる」の先を知るために、小倉さんとともに産業廃棄物処理工場を訪れました。そこでは丁寧に分別処理が行われており、唯一無二の素材に出会いました。

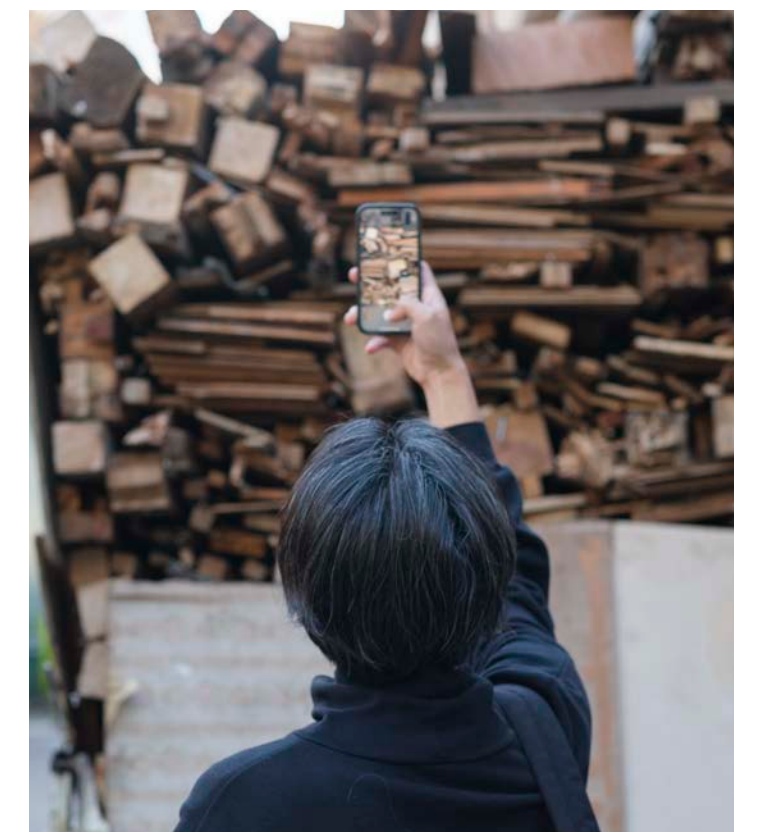
ポップアップストアで皆様を迎えるのは、木造建築の廃材を使った平台什器。複雑な加工を施さず、シンプルにベルトで束ねています。接着剤を使わずベルトで束ねたのは、店舗什器としての役目を終えたあと、分解し、形を変えて三次利用、四次利用することも考えているから。壁面の棚にも、産業廃棄物処理工場で出会った板材を使用し、製品が触れる表面だけ塗装しています。収納棚は、同じく3月に増床リニューアルオープンした「SHIRO ルミネ池袋店」で不要になった棚を再利用。不要になったものを捨てるのではなく、一度立ち止まり、新たな価値を見つけることで未来が変わります。床、天井、壁面は、渋谷PARCOのものをそのまま使用するので、撤収時に産業廃棄物が出ません。このように、捨てることも考えてつくるクリエイティブを実践していきます。

廃材や廃棄物を利用して満足するのではなく、私たちが作りだしたものを再利用しやすくし、廃棄物ゼロを目指してアクションをし続けるために、つくり込みを最小限に抑え、そのまま活かして使っていくことも大切だと考えています。



小倉寛之 Hiroyuki Ogura

兵庫県小野市出身。京都造形芸術大学（現 / 京都芸術大学）芸術学部環境デザイン学科卒。cafe co.勤務ののち、2011年インテリア事務所DRAWERSを設立。循環し、未来に繋がる創作活動に取り組む。2022年より、クライアントワーク以外の活動をスタート。



産業廃棄物処理場を見学していた時に、トラックいっぱいにはまった木材の廃材が運ばれてきた。

捨てることを考えてつくる つくることを考えて捨てる

捨てない未来をつくるために——。

ブランドの誕生から15年目を迎えた2024年、

SHIROは廃棄物ゼロを目指し、

本質的な循環に取り組むことを宣言しました。

まずは廃棄物のことを知らなくては。

そう考えたSHIRO PAPER編集部は
埼玉県にある産業廃棄物処理場を訪れました。

Photographs: KEITA SAWA
Text: SHINTARO KUZUHARA

ZERO WASTE DESIGNを目指す 美しい廃棄物処理施設

捨てない未来をつくるために、SHIROが訪れたのは、埼玉県三芳町にある石坂産業という産業廃棄物処理企業です。石坂産業は、ごみをごみにしない社会「ZERO WASTE DESIGN」をビジョンに掲げ、産業廃棄物の再資源化や、環境教育活動に取り組んでいます。石坂産業では主に、建設系の産業廃棄物を処理していて、建物の解体やリフォーム、道路工事などによって発生する廃材を引き受けています。

処理工場には、さまざまなものが廃棄物として持ち込まれます。不要になり捨てられたものですが、ひとつずつ丁寧に分別すると、元の姿、つまり、木材、金属、プラスチックなどの素材へと還すことができます。私たちが捨てたものを分別し、資源に変えてくれている人たちがいるのです。こうして再資源化された素材を利用すれば、新品の建築資材を使う必要がないので、石油などの天然資源を使う量が減り、環境負荷を軽減したもののづくりができます。石坂産業が素晴らしいのは、この分別に徹底的にこだわっていること。実に98%の廃棄物をリサイクルしていて、その技術は日本でもトップクラスです。



美しい——

SHIROブランドプロデューサーの今井浩恵は、石坂産業の工場を初めて訪れたとき、その光景の美しさに鳥肌が立ったと言います。皆さんは廃棄物処理工場と聞いてどんな景色を想像しますか？ 汚い、臭いと思う方が多いかもしれません。石坂産業の工場を訪れると、そんなイメージとはかけ離れた、とても美しい風景が広がっています。見学コースは広く一般に公開されており、廃棄物がどのような工程で仕分けされていくかを丁寧に解説しています。その堂々とした姿勢は、後ろめたいものが何もない証拠。天窓から差し込む光が、廃棄物を美しく照らします。

世界中の廃棄物を石坂産業で受け入れるわけにもいきません。私たちがどうしても生み出してしまうものを、どうしたら廃棄物のままにしない未来に近づけるのでしょうか。石坂産業代表取締役の石坂典子は、捨てることについて、もっと意識的に考えることが必要なのではないかと問いかけます。



石坂典子 Noriko Ishizaka

高校卒業後、米国の大学に短期留学。父親が創業した石坂産業に1992年入社。2002年社長就任。自然と美しく生きながら、「循環」のプロとして産業廃棄物の中間処理業を通じて廃棄物を再資源化し、次の暮らしをデザインする。

分別すれば、資源になる

〆 どういう想いを込めたのか、
どんな素材からつくったのか、
どんな生産者さんが関わっているのか。
さまざまな人が「つくること」については、
たくさんの労力と時間をかけて語るけど、
「捨てる」ことについては誰も語りません。
でも本当は、つくると捨てるは
セットなのではないでしょうか

〆

SHIROはまさしく、ものづくりを誇りにしてきたブランド。変わるべきは私たち自身だと思っています。ブランドの誕生から15年目を迎えた2024年。石坂産業をはじめ、さまざまな人たちと「捨てることを考えてつくり、つくることを考えて捨てる」ためにさまざまなプロジェクトを始めています。

〆 ごみをごみのままにしておく
そんな社会の仕組みに
ずっと疑問を持っていました。
捨てることを考える。
捨てられている現場を知る。
そこには本気で向き合う人がいる。
だからこそ、見える場を提供し
人として考える機会がある
という価値を大切にしているのです。

〆

みんなで考える。これはSHIROも大事にしていることです。工場を開き、さまざまな人が集える場所でものづくりを進めています。私たちの未来について、もっとたくさんの人と考えていきたい。そう考えて「みんなの工場」をつくったのですから。社会を見る眼差し。問題へのアプローチ。本質的な美しさの追求。何かと共通点が多い石坂産業と一緒に店舗づくりを進めることになりました。捨てることを考えてつくり、つくることを考えて捨てる。SHIROは目指したい未来への一歩を踏み出しています。ぜひ店舗にお越しいただき、その挑戦をご覧ください。



「SHIRO ルミネ池袋店」が増床リニューアルオープン 資源を見つめ直し、未来へ繋げる店舗づくり

2024年3月1日（金）に増床リニューアルオープンした「SHIRO ルミネ池袋店」で取り組むのは、壊してつくり変えるのではなく、廃棄されたものにクリエイティブを加え生まれ変わらせる、新しい店舗づくりです。新品の建築資材の使用を最小限にとどめるため端材や廃材などを使用しました。

生まれ変わった店舗では、さまざまなマテリアルを感じていただけます。カウンターの天板は、石坂産業が、建設解体現場から出る廃棄物を徹底的に分別・分級した精選土からつくった「NS-10 (Natural Sand-10)」という再資源化された素材からつくりました。今までは路盤材や埋め戻し材として使われてきた素材を天板として使用。木製カウンターは、千葉県鴨川市でエディブルフラワーを栽培する「苗木」の井上隆太郎さんが、里山の環境を再生するために、放置されていた杉を間伐し、その杉材でログハウスをつくる際に出た余剰材からつくったもの。シーズナルビジュアルを掲げる中央の

柱やレジには、販売用タイルの検品時に厳しいチェックにより弾かれ、埋立地利用にまわされる前段階でお願いいただいたタイルを再活用しています。

リニューアル前、店舗にあったものも使用しています。フェンスや壁面棚は、新しい店舗イメージに合わせて塗装を施しそのままフェンスとして、壁面棚は中央の柱部分に使っています。製品が並ぶカウンターや床も必要な部分を補修するだけ。新しくつくる什器には釘や接着剤を使用せず、将来的にパーツの組み合わせを変えれば再利用できるようにしました。そして改装工事中に出てしまう産業廃棄物も、石坂産業とともに分別まで見守り、現状予想される再資源化率は100%です。

ぱっと見てわかる工夫ではありませんが、廃棄物を生み出さず循環可能な建物づくりが当たり前となる未来を目指した、小さくも大きな一歩となる店舗です。

LUMINE IKEBUKURO MATERIAL REUSE



産業廃棄物を再資源化した「NS-10」を天板に。
本質的な循環を形にした什器の誕生です。



新しく木を伐るのではなく、建築時の余剰材から
生まれた、木の温もりを感じるカウンター。



販売用タイルの検品時に弾かれたものを再活用。
検品跡も個性として捉え、残したまま壁面に。

SHOP LIST

北海道

SHIRO 砂川本店
SHIRO 札幌ステラプレイス店

北海道砂川市豊沼町 54-1 みんなの工場内
北海道札幌市中央区北 5 条西 2-5 JR タワー
札幌ステラプレイス センター B1

関東

SHIRO 表参道本店
SHIRO BEAUTY 表参道本店
SHIRO 自由が丘店
SHIRO NEWoMan 新宿店
SHIRO ルミネエスト新宿店
SHIRO 伊勢丹新宿店
SHIRO 丸ビル店
SHIRO 銀座三越店
SHIRO +Q (プラスク) ビューティー
渋谷スクランブルスクエア店
SHIRO 渋谷ヒカリエ ShinQs店
SHIRO ルミネ池袋^{※1}
SHIRO 玉川高島屋S・C店
SHIRO ルミネ北千住店
SHIRO ルミネ横浜店
SHIRO ルミネ大宮店
SHIRO/TIAT DUTY FREE BEAUTY
SHIRO 渋谷PARCO POP UP STORE^{※2}

東京都渋谷区神宮前 5-2-7 2F
東京都渋谷区神宮前 5-2-7 B1F
東京都目黒区自由が丘 2-9-14 アソルティ 1F・B1F
東京都新宿区新宿 4-1-6 NEWoMan 新宿 1F
東京都新宿区新宿 3-38-1 ルミネエスト新宿 B1
東京都新宿区新宿 3-14-1 伊勢丹新宿店本館 1 階＝化粧品
東京都千代田区丸の内 2-4-1 丸の内ビルディング B1F
東京都中央区銀座 4-6-16 銀座三越 地下 1 階 ギンザコスメワールド
東京都渋谷区渋谷 2-24-12 渋谷スクランブルスクエア
ショップ&レストラン 6階 SHIRO +Q (プラスク) ビューティー店
東京都渋谷区渋谷 2-21-1 渋谷ヒカリエ ShinQs 1F
東京都豊島区西池袋 1-11-1 ルミネ池袋 B1
東京都世田谷区玉川 3-17-1 玉川高島屋 S・C 南館 1F
東京都足立区千住旭町 42-2 ルミネ北千住 3F
神奈川県横浜市西区高島 2-16-1 ルミネ横浜 1F
埼玉県さいたま市大宮区錦町 630 番地 ルミネ大宮店 ルミネ 2 3F
東京都大田区羽田空港 3-4-2 第2ターミナル3階 国際線出国エリア内
東京都渋谷区宇田川町 15-1 渋谷パルコ 1F POP UP スペース "GATE"

中部

SHIRO タカシマヤ ゲートタワーモール店
SHIRO ジェイアール名古屋タカシマヤ店

愛知県名古屋市中村区名駅 1-1-3 タカシマヤ ゲートタワーモール 6F
愛知県名古屋市中村区名駅 1-1-4 ジェイアール名古屋タカシマヤ 3F 化粧品

近畿

SHIRO 大丸京都店
SHIRO ルクア イーレ店
SHIRO 阪急うめだ店
SHIRO 大丸心斎橋店
SHIRO 大阪タカシマヤ店
SHIRO 大丸神戸店

京都府京都市下京区四条通高倉西入立売西町 79 大丸京都店 1F
大阪府大阪市北区梅田 3-1-3 ルクア イーレ 2F
大阪府大阪市北区角田町 8-7 阪急うめだ本店 3F HANKYU BEAUTY
大阪府大阪市中央区心斎橋筋 1-7-1 大丸心斎橋店本館 1F
大阪府大阪市中央区難波 5-1-5 高島屋 大阪店 1 階化粧品売場
兵庫県神戸市中央区明石町 40 番地 大丸神戸店 本館 1F 化粧品

九州

SHIRO 岩田屋店
SHIRO 博多阪急店

福岡県福岡市中央区天神 2-5-35 岩田屋本店 本館 1 階＝化粧品
福岡県福岡市博多区博多駅中央街 1-1 博多阪急 1F 化粧品

台北

SHIRO 新光三越台北信義新天地 A11 店

台湾台北市信義區松壽路 11 號 1 樓

London

SHIRO Monmouth Street

Ground Floor, 63 Monmouth Street, London, WC2H 9DG, UK

※¹ 2024年3月1日(金)増床リニューアルオープン

※² 2024年3月8日(金)～3月26日(火)

SHIRO
PAPER
ZERO EDITION
Ver. 2.0

発行：株式会社シロ
お問い合わせ
TEL: 0120-275-606
MAIL: info@shiro-shiro.jp

編集長：今井浩恵
Editor in Chief: Hiroe Imai

クリエイティブ・ディレクター：佐々木信 (3KG)
Creative Director: Shin Sasaki

エディター：葛原信太郎
Editor: Shintaro Kuzuhara

表紙写真：澤圭太
Photographer: Keita Sawa

発行人：福永敬弘
Publisher: Takahiro Fukunaga

プロデューサー：伊藤亜由美 (CREATIVE
OFFICE CUE)
Producer: Ayumi Ito

フォトグラファー：岡田昌紘
Photographer: Masahiro Okada

編集企画：野木村美里
Editorial Planning: Misato Nogimura

PR・校正：小林穂乃香
Public Relations: Honoka Kobayashi

PR・撮影：笹木舞子
Public Relations: Maiko Sasaki

Thanks to:
小倉寛之 / DRAWERSの皆さん / 石坂典子 /
石坂産業の皆さん / 井上隆太郎 / 丸山剛由 /
北崎千鶴

印刷：株式会社龍文堂
Print: Ryubundo Co., Ltd.

Copyright © SHIRO Co.Ltd.
All Rights Reserved.
本誌掲載の写真、イラストレーション、記事、
ロゴの無断転載および複写を禁じます

shiro-shiro.jp
@ shiro_japan
@ shiro_sunagawa
@ maisonshiro_

